Verde ヴェルデ

地域と共に未来へ歩む
みどり病院グループ広報誌

Midori Hospital PR Magazine VERDE

No. 04
Winter
2023

〈対談・みどりトーク〉
院長　成瀬 聡
株式会社スプリンク 代表取締役　青山 裕紀

新潟県初のAIプログラムによる脳ドックで認知症の早期発見に期待。

〈トピックス〉当院の先進的検査のご紹介

脳ドックについて

〈連載企画〉みどり病院リハビリマインド vol・4
齋藤副院長と新潟医療福祉大学の永井先生による対談企画
多彩な地域医療連携のかたち

「医療福祉大学とのチーム医療」

みどり病院のスタッフが
ちょっとお邪魔します。

みどぼた 会議

〈第4回〉

『地域助け合い活動 雑巾づくり』

鳥屋野上山圏域 支え合いのしくみづくり推進員 宮路

昨年1月、新型コロナウイルス感染症防止のため、地域のお茶の間が休会となりました。長引く自粛生活は体力の低下だけでなく、人との関わりが減ったことで活力を失うなど、健康面への影響が憂慮されました。そこで、皆と集えなくとも同じ活動で繋がり、またフレイルの予防として自宅でもできる手作業「雑巾づくり」に地域の方々と一緒に取り組みました。出来上がった雑巾は小学校の子ども達に届け、教育の現場に役立てていただくことにしました。
今回は、145枚の雑巾が集まり、出来上がった雑巾を新潟市立女池小学校の皆さんにプレゼントさせていただき、地域の代表者の方と一緒に、校長先生にお渡しさせていただきました。

女池小学校に手作りの雑巾を
寄贈いただきまして
誠にありがとうございました。
皆様のお気持ちと共に、
全校児童に知らせ玄関に展示しました。
今、学校の掃除や消毒作業に
使わせていただいています。
皆、笑顔で喜んでおり掃除にも
力が入っています。
校長先生より

医療法人
新成医会

認知症疾患医療センター
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2丁目5番1号
tel.025-244-5566

介護医療院 みどりケアセンター
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2丁目5番1号
tel.025-244-6100

介護老人保健施設 緑樹苑
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2丁目4番24号
tel.025-244-6100

みどり訪問看護リハビリステーション
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2丁目4番24号
tel.025-244-0147

新潟市地域包括支援センター 宮浦東新潟
〒950-0913 新潟市中央区鐙1丁目5番16号
tel.025-240-6111

堀川内科・神経内科医院
〒951-8151 新潟市中央区浜浦町1丁目181番3号
tel.025-266-3770

医療法人 新成医会 総合リハビリテーションセンター **みどり病院**
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2丁目5番1号 tel.025-244-0080
https://www.midori-gr.jp
みどり病院　新潟　検索

みどり病院 広報誌 Verde
〈発行人〉総合リハビリテーションセンター・みどり病院 病院長 成瀬 聡　〈発行日〉2023年1月

新潟県初のAIプログラムによる脳ドックで認知症の早期発見に期待。

院長
成瀬　聡
satoshi naruse

みどり × トーク
対談

株式会社スプリンク 代表取締役
青山 裕紀氏
yuki aoyama

最新技術を駆使し、認知症の発症や進行を遅らせる対策を進めます。

成瀬 聡 院長

1986年新潟大学医学部卒業。医学博士。日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医。院長としての業務に携わりながら、週3回、脳神経内科・もの忘れ外来を担当。

成瀬　お忙しい中、ありがとうございます。東京にある青山社長の会社とインターネットで結んでリモート対談を行います。はじめにスプリンク様の事業内容についてお聞かせください。

青山　当社は脳健康に特化した「ブレインヘルスケア」という産業が、今後の人々の健康にとって重要になると考えております。その中でも脳科学とAIを組み合わせることで、認知症の早期発見に注力しています。具体的には脳の海馬を中心とした生体データを元に、AIによる疾患リスクを定量化し、健常の段階から発症の段階まで、幅広い診断結果をワンストップで提供している国内唯一の専業メーカーです。

成瀬　当院では認知症の診断に海馬の体積を計る御社の画期的な脳ドック用のAIプログラムを知り、昨年の秋に新潟県内で初めて導入させていただきました。また当院では2014年から「認知症疾患医療センター」を運営し、認知症専門医や認知症を学んだ専門スタッフがチームを組み、認知症の解決に力を入れてきましたが、そこに最先端の技術が加わりました。海馬の体積に着目した経緯を教えてください。

青山　認知症が発症する数年前から海馬の体積が減り始めることが分かっています。海馬が萎縮すると記憶を保存する機能が弱くなり「新しいことを覚えづらい」「忘れっぽくなる」という症状が出てきます。

成瀬　このプログラムを作るにあたり、青山社長は北米の大学やビジネススクールで医療の専門家と触れ合って学んでこられたと聞きますが、その後、スプリンク創業を視野に多くの診断サンプルを集めたそうですね。

青山　はい。国内トップレベルの専門医や研究者とともに医師の総合的な診断ノウハウを集め、AIに学習させ、データ増幅などを用いながら大量のデータセットを用いて、記憶の中枢を司る「海馬」の解剖学的な領域抽出のアルゴリズムを構築しました。今まで医師の経験や知識に頼っていた診断をテクノロジーの力で支援できればと考えています。

成瀬　各所にAIの技術が生かされているのですね。また検査結果がグラフなどで「見える化」しているので、その辺が非常に特徴的だと思いますね。

青山　当社は創業以来、脳の健康情報を知るという受診者にとっての心理的ハードルに対して、テクノロジーとデザインで解決することを目指してきました。その一つの成果が、当AIプログラムが2022年度グッドデザイン賞を受賞したことなどが挙げられます。これは、医療用のAIプログラムとしては、日本初の実績のようです。

成瀬　デザイン化は確かに重要です。海馬の体積の経過変化をグラフで追うと一目でわかります。これからは他の検診結果もそうあるべきだと思いますね。

青山　分かりやすいと定期的に受診しようという気持ちになりますし、早期発見できれば発症予防、進行遅延が可能と言われています。

成瀬　アルツハイマー病の予防には生活習慣病のコントロールを含め、いろいろな方法が分かってきました。人間ドックと同じように脳ドックを定期的に受け、海馬の体積が減ってくるようであれば予防を強化していく必要があります。また当院では御社の脳ドックのプログラムの他にも、認知機能測定ツールを試験的に導入しています。

青山　ありがとうございます。これはスマホによる簡単な記憶力・注意力テストで、認知機能が測定できます。40～50歳代の方にも気軽に受診してもらいたいですね。

成瀬　脳の疾患は自覚症状が乏しいケースが多いため、無症状の場合でも若い年齢から定期的に受診して、将来の認知症に繋がるリスク行動を控えることが大切です。

青山　これから人生100年の超高齢化社会を迎え、脳が健康でなければ自分らしい生き方は難しいと思います。

成瀬　その通りです。今後も御社の技術力に期待しています。

青山　他の病気にもAI技術の応用が可能なので、その取り組みも進めています。新潟にお邪魔して院長と情報交換をさせていただきたいですね。

成瀬　ぜひ、お会いできることを楽しみにしています。

「ブレインヘルスケア」という新しい産業を発展させ、医師の診断を支援します。

青山 裕紀 社長

慶應義塾大学法学部卒業後、株式会社キーエンス入社。同社北米ビジネスにおける事業開発等に従事。その後、シリコンバレーVCにてEIRを経て、2017年1月に株式会社スプリンクを設立、代表取締役に就任。ダートマス大学経営大学院(MBA)修了。

◎医師の紹介

院長・脳神経内科

成瀬　聡
新潟大学医学部1986年卒

専門分野
認知症　脳神経内科

資格・認定医
日本神経学会神経内科専門医
日本神経学会神経内科指導医
日本認知症学会専門医
日本認知症学会指導医
日本内科学会認定医
日本認知症予防医学会評議員
新潟市認知症サポート医

副院長・脳神経内科、リハビリテーション科

川村　邦雄
自治医科大学医学部2000年卒

専門分野
内科　脳神経内科
リハビリテーション科

資格・認定医
日本内科学会総合内科専門医

日本リハビリテーション医学会
リハビリテーション科専門医

内科、消化器内科

髙橋　弘道
琉球大学医学部2005年卒

専門分野
消化器内科

資格・認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会消化器病専門医

整形外科、リハビリテーション科

楠目　信三
帝京大学医学部1981年卒

専門分野
整形外科　リハビリテーション科

資格・認定医
日本専門医機構認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本障がい者スポーツ協会公認
障がい者スポーツ医
日本スポーツ協会公認スポーツドクター
日本骨粗鬆症学会認定医
認知症サポート医

◎非常勤医師の紹介

名誉院長・リハビリテーション科

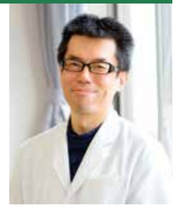
佐藤　豊
新潟大学医学部1974年卒

専門分野
リハビリテーション科

資格・認定医
日本リハビリテーション医学会
リハビリテーション科専門医

日本リハビリテーション医学会
リハビリテーション科指導医

副院長・脳神経内科



矢島　隆二
新潟大学医学部2004年卒

専門分野
認知症　脳神経内科

資格・認定医
日本神経学会神経内科専門医
日本神経学会神経内科指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本認知症学会専門医
日本認知症学会指導医
新潟市認知症サポート医
日本リハビリテーション医学会認定
臨床医

内科、呼吸器内科

松山　弘紀
宮崎医科大学医学部2000年卒

専門分野
呼吸器病学

資格・認定医
日本内科学会総合内科専門医
がん治療認定医指導医

内科

笠見　卓哉
滋賀医科大学医学部2012年卒

専門分野
血液内科

資格・認定医
血液専門医

診療部長・内科、消化器内科

佐藤　剛司
山形大学医学部2001年卒

専門分野
内科　消化器内科

資格・認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会
消化器内視鏡専門医

副院長・内科、呼吸器内科

齋藤　泰晴
佐賀医科大学医学部1988年卒

専門分野
呼吸器病学　一般内科

資格・認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会専門医
日本静脈経腸学会認定医

循環器内科

田邊　靖貴

専門分野
循環器内科　内科

資格・認定医
日本循環器学会循環器専門医
日本内科学会内科認定医

リハビリテーション科

和泉　由貴

専門分野
リハビリテーション科

資格・認定医
日本リハビリテーション医学会
リハビリテーション科専門医

脳神経内科

徳武　孝允

専門分野
認知症、神経内科

資格・認定医
日本神経学会神経内科専門医
日本認知症学会専門医

リハビリテーション科

宮入　暁子

専門分野
リハビリテーション科

資格・認定医
日本リハビリテーション医学会
リハビリテーション科専門医
日本リハビリテーション医学会
リハビリテーション科指導医

verde column　〈ヴェルデ：コラム〉

リハビリ治療における意欲の重要性

名誉院長　佐藤 豊

リハビリ専門医、2年間の米国留学（シカゴ・リハビリセンター）にてリハビリ医学の基礎を学ぶ。

私が心がける、リハビリ治療での意欲向上の極意

リハビリ治療の多くの場面で非常に重要なことは、患者さんの意欲の向上を如何に引き出すかです。これは手術治療のように麻酔をかけて、患者さんを眠らせておいて良い結果を出せる治療との根本的な違いです。

眠らせておいては、リハビリ治療は進みません。ご本人が動こうとしたり、歩こうとする患者さんの意欲が大きく結果に影響します。

一般に、脳卒中、脊髄損傷など重篤な疾病や障害を受けた患者さんは、まず失意のどん底に落ちて、「もうだめだ」「どうしよう」と精神的に落ち込んでいることが多いです。回復期リハビリテーション病棟に来た段階で、私は最初の診察時に「歩けるようになる」「仕事に戻れる」等の見通しをなるべく的確に伝えるようにしています。このことが非常に重要です。

脊髄損傷の患者さんなどでは、下肢の随意運動がどの程度残っているかを診察時にみて、2〜3程度残っている場合は、「将来、歩けますよ」と伝えています。失意のどん底から、（歩けるという）一縷の望みがあると、患者さんはリハビリへの意欲が出ることになるわけです。短い入院期間中に、「リハビリを頑張って、歩くんだ」と毎日意欲的にリハビリに向かう患者さんと、「もうだめだから、リハビリはお任せします」と思っている患者さんとでは、退院時の機能改善の状態は大きく変わってしまいます。リハビリスタッフからの精神的なサポートも非常に重要となります。

また、入院中にレストランにて食事をしたり、外出して映画をみたり、キャンプに行ったりすることも重要ですが、コロナ感染下ではできません。アメリカではレクリエーションセラピーがあり、このような業務を担当しています。

verde topic〈連載企画〉 *vol.4*

当院の先進的検査のご紹介

体だけでなく、脳の健康も大切にしましょう。

みどり病院の脳ドックについて

みどり病院では一般的な脳ドックに、AIプログラム「Brain Life Imaging®」を組み合わせた「プレミアム脳ドック」を新潟県内で初導入。記憶や学習に関わり深い「海馬」の体積を測定し、脳の健康状態を“見える化”します。

＼ こんなことが わかります ／

今まで測定が難しかった **海馬の体積**

健康な脳を維持するための **生活習慣**

同世代と比較した **自分の脳の状態**

新潟県で **初導入**

若い年齢から定期的に受診しましょう

早い段階から脳の健康状態を知っておくと 脳梗塞 くも膜下出血 認知症 などの脳疾患への予防につながります。

検査の特徴

脳ドック×AIで脳を解析

今まで測定が難しかった「海馬」を数値化

「Brain Life Imaging®」は脳ドックで撮影できる頭部MRI画像をAIで解析し、目視確認が難しい海馬の体積を測定します。

健康なときからの脳の経年推移を可視化

海馬体積の測定結果を定期的に観察することで経年推移を可視化し、脳の状態を維持するための指標を提供します。

日頃の生活意識の改善ポイントがわかる解析結果レポート

専門知識がなくても理解しやすいレポートをお渡しします。同年代と比較した自分の脳の状態がわかり、早期から将来に備えるために役立てられます。

検査の流れ

1. **お申し込み** みどり病院に検査をお申し込みください。
2. **頭部MRI撮影** 頭部MRIを撮影します。
3. **AI解析** あなたの頭部MRIから海馬体積を解析します。
4. **結果レポート** 同年代との比較を含むレポートをお渡しします。

※結果についてはおおよそ2週間後に専門医による診察・結果説明となります。

ご予約はこちらから

プレミアム脳ドック

30,000円（税込）

頭部MRI、VSRAD、認知機能検査、AI海馬体積（Brain Life Imaging®）、診察

ご予約はこちらから

プレミアム脳ドック フルコース

40,000円（税込）

頭部MRI、頭部MRA、VSRAD、認知機能検査、AI海馬体積（Brain Life Imaging®）、診察

mCQについて

記憶力・注意力を3分でセルフチェックしましょう!

右のQRコードを読み取り、ご自身のスマートフォンで試してみましょう。

簡易テストQRコード

チェックの流れ

1. **アンケート回答** ご自身の性別・年代をご回答ください。
2. **セルフチェック** 記憶力・注意力のテストを実施します。
3. **結果を確認** アンケート・セルフチェックに応じた結果が表示されます。
4. **お問い合わせへ** より詳しい検査を受けられたい場合は、検査内容をお問い合わせください。

コース名 プレミアム脳ドックフルコース

認知症の専門スタッフがいる当院だからこその役割

我が国では、高齢者の増加に伴い、認知症の人が増えており、2025年には認知症の人が700万人に達すると推計されています。これは、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症であることを意味しています。認知症はもはや特別な疾患ではなく、高齢者のありふれた疾患です。今後はいかに早く診断し、早期から介入しながら認知症の発症や進行を遅らせるための予防をしていくかが大変重要な課題となります。

当院は、平成26年1月に新潟市より『認知症疾患医療センター』の指定を受けました。これを機に認知症の診断、治療、相談に特化した専門センターをみどり病院内に開設いたしました。専門外来での認知症の早期診断・治療を行うとともに、御家族の認知症に関する問題や相談を、認知症専門医をはじめとする認知症を学んだ専門スタッフがチームを組んで解決していく体制を作っております。

認知症の早期発見には、脳の健康状態が包括的に分かる検査を受けることが重要です。今回導入するBrain Life Imaging®は海馬の体積を正確に測定できます。脳も身体と同様、生活習慣でその健康状態は変わり続けるので、脳ドックを定期的に受け、経年変化をみていくことをおすすめします。早期発見、早期予防が脳の健康の維持に繋がります。

医師　成瀬 聡
みどり病院 病院長兼
認知症疾患医療センター センター長

verde special　齋藤副院長と新潟医療福祉大学の永井先生による対談企画

みどり病院
リハビリマインド vol.4

多彩な地域医療連携のかたち

“医療福祉大学とのチーム医療”

当院では5年程前より、新潟医療福祉大学　健康栄養学科［永井ゼミ］の学生が当院にて研究活動を行ってくれています。この活動は実習ではなく、地域医療のチーム連携を学ぶ自主的な活動です。地域医療のチーム作りに取り組むみどり病院と大学のコラボ企画と言えるこの活動を紹介させて頂きます！

齋藤　今年の研究は、回復期病棟を対象に嚥下機能、栄養状態、口腔機能運動の自立度との関連を検討した研究でしたね。対象患者さんは痩せていて、栄養状態が良くないということ、それから嚥下機能が悪い患者さんは低体重で口腔の状態が不良である方が多い。誤嚥性肺炎を予防する観点からも、この栄養サポート、それから歯科衛生士や言語聴覚士による介入を早くにやるのが良い、という大切な提案を頂きました。私達にとっては、日常診療をやっているだけだと、見えてこない中身を「見える化」して頂き気づかせて頂いて大変ありがたいと思っています。

学生もいつもの実習とは異なった体験ができる…

永井　みどり病院は栄養に力を入れている、栄養管理を大事にしている病院だと思っています。栄養そのものでなくても、口腔機能やリハビリと栄養との関連などしっかりとやられているのでチームのネットワークがちゃんと機能している。また医師だけではなく、他の医療職も一緒に指導してくれる…学生にとって管理栄養士の実習と異なるものであり、すごく勉強になる。今、病院でどんなことが問題になっているのかを知ることができる機会にもなると感じています。

研究から見えてきたこと

永井　いかに回復期に入られている患者さんに低栄養が多いかということ、そして口腔の問題があること、口腔の問題があるということは栄養状態に関わりますので、そういうことをきちんと口腔評価や嚥下のスクリーニング検査をしてルーチンにやっている。そういうところは少ないですよね。珍しい。その分、看護師さんやリハビリスタッフの方は大変だと思いますが、やっぱり評価をしているから何が問題なのか問題点に気づきやすい。入院時の今どういう状態だから、何をしたら良いのか？対応も早めにしやすいのだと思います。

齋藤　私達の方は、評価はしているんだけれども、活かしきれていないところがある…。それが私達にとっての課題であると明らかになりました。とっても有意義な研究結果を教えて頂きました。また、実臨床で日々働いている者にとっては、研究は敷居が高く感じられます。研究のノウハウや統計・解析のノウハウなどは苦手なところがある。その辺、大学の先生達に入って頂いて、指導してもらえるといいですね。この3年間は直接患者さんに関わっての研究は難しいところがありましたが、これからは with コロナですから、直接的にもっと一緒に研究をしていきたいですね。リハビリの効果やアウトカムをしっかり上げるために、「リハ栄養」の分野でも研究を引っ張ってもらえればと思います。

永井　私にとっても学生にとってもすごく学びになります。これからもよろしくお願いします。

※写真撮影のため、一時的にマスクを外しています。当院ではマスク着用を徹底しております。

当院の摂食嚥下チームも学生から多くの刺激を受けています!!

歯科衛生士

看護師

言語聴覚士

摂食嚥下チーム

口腔の動きや飲み込みの問題を評価、リハビリをする言語聴覚士や、口腔内の状態を確認し口腔ケアをして美味しく安全に食べられる口腔環境作りを行っている歯科衛生士、口腔トラブル予防、早期発見に努める看護師など。

学生さんの研究について

日頃取っている口腔評価や栄養評価のデータは、取って終わりで次に繋げられていないところが、学生さんたちの研究で、次に繋げることの必要性を感じました。また多職種で入院時早期から関わっていく事が大切なんだと改めてわかりました。

学生の方達に研究で、日頃やっていることが重要と示して頂けて嬉しいです。今後は栄養不足を解消し、有効な運動トレーニングやリハビリ効果を提示できるようにしたいです。栄養状態の改善には運動と口腔と栄養の3つが不可欠なので、ぜひ一緒に研究活動をやれると良いですね。

大切にしていきたい…
医療を通じて共に学ぶ関係性

回復期リハ患者は低栄養が多く、
管理栄養士の役割を
改めて理解できました。

研究を通じて、みどり病院では
多職種が多くの評価をしていることを、
データのまとめをしている中で感じ、
チーム医療の重要性について理解できた。

自分達のまとめた論文が
本当に役立つのか、心配だったが、
とても感謝しているとの
コメントを聞いて大変嬉しい。
国家試験の励みになる!

齋藤 泰晴
1988年佐賀医科大学（現佐賀大学）医学部卒業。
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本静脈経腸栄養学会認定医。栄養サポートチーム（NST）チーフ、食支援外来を担当。（新潟医療福祉大学健康栄養学科非常勤講師を兼任。）

永井 徹
1962年 新潟市生まれ。
新潟医療福祉大学大学院医療福祉学専攻修了 博士（保健学）
管理栄養士
栄養サポートチーム(NST)専門栄養士
日本臨床栄養代謝専門療法士（肺疾患）
国立病院勤務を経て
2013年 新潟医療福祉大学 健康栄養学科 准教授。
2020年 新潟医療福祉大学 健康栄養学科 教授 現在に至る。

永井ゼミ 学生の皆さん
健康栄養学科で、栄養（食）を通して「チーム医療」に貢献できる管理栄養士を目指して日々奮闘中! 当院と連携して、回復期病棟における口腔機能と栄養状態の関係性について研究をしています。

マンガで分かる！認知症のこと

テーマ

『当たり前にできていたことが苦手になる』

以前は問題なくできていたことが難しくなったり、苦手になることがあります。計算が苦手になると日常生活で困る代表的な場面は「買物」です。私たちは通常、店員に言われた金額に対して紙幣と硬貨をちょうどよく組み合わせて支払いをします。その『紙幣と硬貨をちょうどよく組み合わせる』という基本的な計算が苦手になってしまうために、間違う心配の少ない、大きな金額の紙幣で支払いを済ませる『札払い』が多くなる傾向が出てきます。札払いが増えてきて、硬貨が大量に手元にあってもそれをうまく支払いに使うことができない様子が見られたら、認知症の症状が出てきている可能性があります。
その他、言葉が出にくくなり「あれ」「それ」が増える、説明されてもそのとおりにできない、衣服の着替えが難しくなる、なども見られることがあります。

今回の作面は、鳥屋野中学校造形部さんにお願いしました！

本人との接し方のコツ

苦手になったからといって、すぐにそのことをやめさせたりするのは望ましい対応とはいえません。本人の動作や反応をよくみて、苦手そうなところだけをさりげなく手助けするとよいでしょう。
また、失敗したり間違ったりしたときに、そのことを注意したり責めたりすると、その時のいやな感情だけが残ってますます苦手になっていきます。できるだけ簡潔に、そしてにこやかに伝えるようにすることが大切です。お店の方には、時間がかかっても「小銭をお持ちなら払えるかもしれませんよ」などと声をかけて、本人の目の前で小銭を出し、金額に合わせるなど支払いの支援をしていただくと、本人も安心して買物を続けられると思います。

絵:S·K（鳥屋野中 2年生）
認知症についてはよく知っているつもりでしたが、今回この漫画を描き、改めて認知症という症状の大変さを考えることができました。この漫画では当たり前の日常の中で見えていない心情を考えながら描きました。困っている人を放っておくことがないようにしたいなと思いました。

お問い合わせ　みどり病院 認知症疾患医療センター
tel.025-244-5566 fax.025-247-1005

連携医療機関の紹介 4

新潟市中央区

斎藤内科クリニック

施設概要

名称
斎藤内科クリニック

開設
平成6年

所在地
〒950-0926
新潟市中央区高志2-20-3
tel.025-287-5800
fax.025-287-6688

診療科目
内科、在宅医療

外来受付
月、火、水、金、土曜

時間
9:00～12:00／月、火、水、金、土
午後、木曜終日は訪問診療

院長 斎藤忠雄先生に聞きました。

Q 診療所の特徴、診療方針を教えてください。

A 外来診療と在宅医療を行う、かかりつけ医機能を持った診療所です。〝頼まれごとは断らない〟。認知症でもガン終末期でも患者様を支援する診療を心がけています。

Q 最近気になっていることについて。

A 〝食べる、しゃべる〟は、人が〝生きる〟原動力。食支援が大切だと思います。

Q 先生の座右の銘は？

A 模倣 蓄積 創造。

Q 先生の休日の過ごし方は？

A 休日は新鮮な野菜を求めて、地場産直センターめぐりを楽しんでいます。

地域共生社会を実現するための仕組み、地域包括ケアシステムの構築にかかわる専門職としてがんばります。